

## 第10分科会

# 地域資格教育プログラムの運営と 大学地域連携のこれから

報告者

**白石 克孝** 龍谷大学 政策学部 教授／地域協働総合センター長

**長光 太志** 佛教大学 社会学部 非常勤講師

**馬袋 真紀** 朝来市市長公室あさご暮らし応援課 あさご人財創生係長

コーディネーター

**山本 真一** 京都文教大学 総合社会学部 准教授

【参加者 31名】

京都府下の9大学による連携のもと、地域資格制度「初級地域公共政策士」を開発・運用している。

本分科会では、連携大学による地域資格教育プログラムのうち、とくにアクティブラーニング科目に関する事例を報告・共有し、地域資格教育プログラムが抱える課題や今後の方向性について議論する。さらに、地域の現場のニーズに対して本資格教育プログラムが果たしてきた成果をふまえながら、大学地域連携における大学の果たすべき役割について改めて議論してみたい。



# 地域資格教育プログラムの運営と大学地域連携のこれから

京都文教大学 総合社会学部 准教授 山本 真一

## 1. 本分科会の概要

京都府下の9大学（龍谷大学、京都大学、京都府立大学、京都産業大学、京都橘大学、同志社大学、佛教大学、京都文教大学、福知山公立大学）において、地域資格制度「初級地域公共政策士」を開発し運用を行っている。本分科会では、連携大学による地域資格教育プログラムのうち、特にアクティブ・ラーニング科目に関する事例を2名の方より報告していただいた。それに加え、行政の側から地域の人財育成の実践事例を報告していただいた。これらの報告をもとに、地域資格教育プログラムが抱える課題や今後の展開について報告者ならびにコーディネーター間で議論するとともに、大学地域連携における大学の役割についても議論した。

## 2. 報告の概要

第1発表者の白石克孝氏（龍谷大学 政策学部）より「大学地域連携による資格教育プログラム」と題して、報告をしていただいた。前半部分では、地域公共政策士の資格制度が誕生した背景ならびに本資格制度の資格フレームについて紹介していただいた。後半部分では、龍谷大学政策学部において実施してきたアクティブ・ラーニングの事例を報告していただいた。白石氏の報告によれば、アクティブ・ラーニングを通じて、学生に社会に関与させ、コミュニティ活動を行うことで学生は変わっていくということである。

第2発表者の長光太志氏（佛教大学 社会学部）より「佛教大学における初級地域公共政策士プログラムの紹介—南丹市美山町でのPBL型地域インターンシップ—」と題して、報告していただいた。前半部分では、佛教大学の初級地域公共政策士プログラムの紹介がなされた。佛教大学では、「中山間地域の活性化」をテーマとした講義やPBLを展開し、それを通じて学生の問題解決力を養成することを初級地域公共政策士プログラムの目的としている。後半部分では、初級地域公共政策士プログラムのアクティブ・ラーニング科目であるPBL型地域インターンシップについて詳しい説明がなされた。本科目の成果として、①主体的学習力、②コーディネート力、③政策立案能力、の3つが期待されている。

第3発表者の馬袋真紀氏（朝来市 市長公室あさご暮らし応援課）より「子どもから大人まで、タテ・ヨコ・ナナメのつながりが学びをはぐくむ—ASAGOiNG人財育成プロジェクト」と題して、報告していただいた。朝来市では平成28年より人財育成プロジェクトを実施している。「ASAGOiNGな人」という人財育成像を掲げており、それは「未来をつくるチカラ」と「まちを愛するチカラ」との足し算によって表現される。前者には主体性、多様性、自己肯定感などが含まれ、後者はシビックプライド（自負心）とも言い換えられる。小さな子ども・小学生から中高生、大学生、そして社会人にいたるまで、それぞれの段階に応じてプログラムがつけられている。

## 3. 報告に対する質疑および総括ディスカッション

3名の発表者による報告の後、登壇者間で質疑応答を行っていただいた。紙幅の都合上、その内容は割愛する。その後、フロアーからの質問に回答していただきながら、発表者ならびにコーディネーター間で総括ディスカッションを行った。以下は、その内容の概要である。



### (1) 大学と地域との関係について

Q. 地域公共政策士プログラムの実現に際して、大学側が自治体（地域）に求めることは何でしょうか。

A. 認証の枠組みをみんなで一緒に話し合って、資格プ

プログラムを打ち合わせたり、実施したりする際に自治体や団体と協定書を結んだ。また大学だけでなく、自治体のほうでも外部資金調達をしてもらった。長期的には、採用試験において試験や面接のある部分をパスできるような活用をしてもらえるように、地域公共政策士を信頼に足るようなものにしていくことが自治体に期待したいことである。

Q. ASAGOiNG人財育成プロジェクトの実施に際して、自治体側が学校(特に大学)に求めたいことは何でしょうか。

A. 中高校生を対象にするならば、中高生と大学生をタイアップしていくことが魅力的である。こちら側としても、大学のどういった方とタッグを組まなければならないかを考えなくてはならない。一方、大学側のニーズが分からないので、いまのところつなげられない。お互いがウィン・ウィンの関係になるような取り組みをしたい。そのためには、お互いが求めていることを意思表示して、マッチングする機関が重要ではないかと思っている。

Q. ニーズのマッチングについて

A. 何がやりたいかを地域の側に聞くのではなく、大学側で何ができるのかを話し合うことが大切である。ニーズが成熟することが必要で、それだけ時間と手間をかけないといけない。上層部どうして大雑把なところでニーズの交換をしたうえで、具体的には課レベルでお互いのニーズの交換をしていくことが必要ではないか。また、お互いに達成できる目標を立て、ミッションを具体的に提示しあうことが大事ではないか。さらに、行政の側でも大学をお客さん扱いせず、受け入れ態勢を整えていくことも必要であろう。

## (2)資格教育プログラム(または人財育成プログラム)の成果について

Q. 留学生も一緒に参加している事例はありますか。

A. 佛教大学では、1名だけ中国から来た留学生が初級地域公共政策士プログラムに参加した事例があった。普通の学生と同じように活動していた。留学生が参加する意義はあるが、日本語の能力は一定程度必要になる。龍谷大学では、ドイツのドルトムント大学や南京大学と交換留学の形で参加している事例がある(今後はポートランド州立大学とも実施する予定である。)

Q. ASAGOiNG人財育成の取り組みにより、Uターンや地元定着などの成果にはどのようなものがありますか。

A. 生涯学習センターの講座の卒業生が中学生のジュニアリーダーのような形で関わったり、ASAGOiNGゼミを卒業している大学生がASAGOiNGゼミのスタッフとして関わっている。就職して帰るところまではまだ行っていないが、子育てをしに帰って来たいという学生が確実にいるという実感がある。すぐに帰ってくるのではなく、社会人としていろいろ経験してこういう力をつけてから帰って来たいというふうに、自分のビジョンを持って活動している大学生もいる。

Q. 学生が地域に入ることで、得られる能力をどのように定義づけられていますか。また、その構成科目における評価基準について、どのように工夫されていますか。

A. 佛教大学では、最終的な評価は担当教員が行うが、複数の主観を交えて評価をしている。コーディネーターや地域の方、事業者の方の声、そして学生の自己評価・相互評価を組み合わせてやることになる。正直に言うと、能力の定義は難しくなってくる。学生の成長の範囲はばらばらで、あまり形式ばった能力の定義をしないほうがいいのではないかと。龍谷大学では、学習アウトカムの評価は、学生に書かせている学習ポートフォリオがベースになっている。それに加え、授業の準備・事後学習での貢献度や提出物の有無などの客観的な評価に、各プロジェクトの教員やスタッフ、地元の人たちの評価がくっついてくる。そのうえで、複数の担当教員が相談して評価をつけている。外部の機関にプロジェクトの事前・事後の部分での評価をしてもらったこともある。正

直なところ、学生が納得する評価をしないと学習アウトカムの評価は難しい。



Q. 地域公共政策士において社会的認証を受けることの意義、資格を有することの実質的なメリットについてどのように考えていますか。

A. 京都の地域では人材不足感が持たれているので、地域公共政策士には地域や京都の未来を切り開いていくという期待感が強い。潜在的には、全国各地に地域公共政策士に対する期待があると思う。最初は職能資格というイメージをもってやっていたが、やっていくうちに社会にコミットして、自分が社会の一員になるという経験がしっかりと評価されるというところに意義があり、教育効果が大きいと感じている。こういう形で学びが見える化されて、可視化された部分に学生が自分たちの大学4年間の学びの核心があるという気持ちになる。その意味で、社会の認証機関が認証するモチベーションや仕組みが必要になっていると思う。

### (3)資格教育プログラムの今後の展開について

Q. 初級地域公共政策士を共通のプログラムとして設計する可能性について

A. 地域の企業との連携については、NPO法人グローバルセンターがプログラムをデザインする形で共通の場がある。自治体や地域のプログラムについては先日、大学コンソーシアム京都のところで地域公共政策士の資格の申請を行った。大学コンソーシアム京都での科目とアクティブ・ラーニング科目を通して、地域公共政策士の資格をとれるようにする。京都北部地域連携機構がアクティブ・ラーニングの主たるフィールドを提供する。また、京都府と京丹後市が資金を拠出してつくられた京丹後市のユメまちづくり大学を共通の場にしようと考え、事業を運営している。フィールドを共有することで、お互いの評価水準や評価指標、アウトカムを共有することが課題である。その意味では、価値あるフィールドや出口の所につながる資格制度になっていけば変わっていくのではないかと。さらに、高校や社会人の生涯学習に認証ポイントをつけていくつもりで順々に準備をしている。生涯学習や地域連携のスタンダードをモデル化していきたい。

## 4. 本分科会のまとめ

本分科会では、地域資格教育プログラムの事例および地域における人財育成の事例を通じて、地域資格教育のあり方について多角的な観点から議論することができた。詳しくは前節で記したとおりであるが、初級地域公共政策士がどのような人材を育成するためのプログラムであるのか、すなわち地域資格の人材像を改めて確認することができた。それに加え、本資格における構成科目の評価基準または評価すべき能力に関する課題や大学地域連携における地域と大学とのニーズ・マッチングの課題、さらに大学間連携による共通プログラムの設計・運営上の課題など、さまざまな課題を共有できたことも意義深かった。

最後に、ご登壇者の3人の先生方にはお忙しいなか、予稿集原稿の作成から報告の準備、そして当日の報告とディスカッションをしていただき、心より感謝申し上げます。また、本分科会への参加者の皆さまにも長時間にわたりお付き合いいただき、お礼申し上げます。


文責：第10分科会コーディネーター 山本真一（京都文教大学 総合社会学部）

# 大学地域連携による資格教育プログラム ～学生のアクティブラーニングと社会的関与～

龍谷大学 政策学部 教授／地域協働総合センター長 白石 克孝

## 大学地域連携による資格教育プログラム ～学生のアクティブラーニングと社会的関与～

龍谷大学政策学部 教授  
白石 克孝



## 龍谷大学の大学地域連携と人材育成の研究

①共同研究プロジェクト

- 文科省私立大学研究高度化推進事業(2003～2007)  
龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター(LORCフェーズⅠ)の開設  
コンセプト: 地域公共人材、マルチパートナーシップ、社会的認証による資格枠組  
→ 地域資格認証制度の研究  
教育研修プログラムの研究
- 文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2008～2010)  
龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター(LORCフェーズⅡ)  
コンセプト: 提言の地域社会実装  
→ 地域資格認証制度を地域公共政策士として展開  
教育研修プログラムの実施

© RYUGAKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 京都における大学間連携の10年

①共同研究プロジェクト

○LORCⅠ～Ⅱ(その後、Ⅲ、Ⅳ)の研究結果の社会実装化

② 研究成果の共有と社会システム構築へ

- 文科省戦略的大学連携支援事業への展開(2008～2010)  
「地域公共人材のための京都府内における教育・研修プログラムと地域資格認定制度の開発」  
府内8大学連携: 地域公共人材育成のための地域資格フレームと社会的認証
- 二つの文科省大学間連携共同教育推進事業への発展(2012～2016)  
「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」(産学連携)  
「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」(地学連携)  
府内9大学連携: 地域資格フレームを拡充、産官学民の連携の深化

© RYUGAKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 地域公共政策士の資格制度が誕生した背景

自らの社会的・職能的な能力を育みたいという希望  
社会的に認知してもらう制度の必要性

↓

社会的課題や経済的課題の解決の担い手となるような人材が必要  
地域公共人材育成と認証の必要性

↓

アカデミズムと実践的職能的教育を架橋するような教育  
大学教育改革の必要性

↓

### 地域公共政策士 誕生!

© RYUGAKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 京都版EQFをめざして、地域資格フレームの策定

設計コンセプト: 各国の事例を参照して国際水準のものを京都化

資格の授与と評価(国家資格ではなく社会的認証資格)  
地域公共人材開発機構が英国の資格授与団体・米国のNASPPAの役割

職業教育のプロバイダー  
大学が普通教育と職業教育の両方のプロバイダーに  
大学以外の様々な機関・組織が京都型職業教育のプロバイダーに

カリキュラムのユニット化と履修証明制度  
地域公共人材開発機構と資格プロバイダーが共同してユニットを開発  
大学が関与する場合は文科の履修証明制度として単位を付与可能に  
履修証明制度とリンクしたユニットの単位を大学が認める  
米国カリキュラムの参照: 質確保のためのキャップストーン

EQF(欧州資格枠組み)に準拠した資格設計  
ローカルな資格フレームをグローバルスタンダードに連結

© RYUGAKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 地域公共政策士資格のフレームワーク

【資格教育プログラムの開発と実施】

【資格教育プログラムの運用と評価】

1 プログラムの申請

2 マルチセクターによる評価

3 社会的認証を受けたプログラムの提供

4 プログラムの履修

5 地域公共政策士の資格申請

6 地域公共政策士の認定(資格発行)

産官学民

社会的認証

COLPU

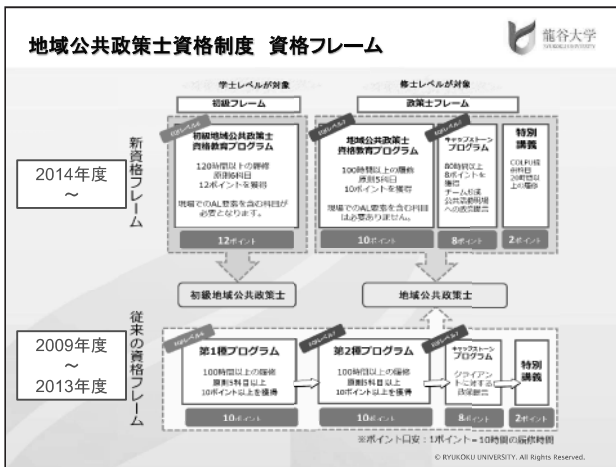
プログラム実施機関

地域で学んだスキルを資格で証明

学習者

実践的学習による新たなスキルや能力

© RYUGAKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.



### 地域公共政策士の学習アウトカム一覧

	レベル1	レベル2	レベル3
知識	基礎的な知識と実践的知識の習得	実践的知識の習得と実践的知識の活用	実践的知識の活用と実践的知識の活用
技能	基礎的な技能の習得	実践的知識の活用と実践的知識の活用	実践的知識の活用と実践的知識の活用
態度	基礎的な態度の習得	実践的知識の活用と実践的知識の活用	実践的知識の活用と実践的知識の活用
学習能力	基礎的な学習能力の習得	実践的知識の活用と実践的知識の活用	実践的知識の活用と実践的知識の活用

### 資格教育プログラムのキーコンテンツ

- **初級地域公共政策士 (学部学士レベル)**  
 企画力・実践力・コミュニケーション能力を身につけるため、チームで実践に取り組む「アクティブラーニング」の要素を含む科目を取り入れている。
- **地域公共政策士 (大学院修士課程レベル)**  
 現実の公共活動を対象に、チーム活動を行い、政策提言書を作成し、外部の意見を取り入れる「キャップストーン・プログラム」を組み込んでいる。

### 京都府北部地域・大学連携機構 (略称CUANKA 一般社団法人) の設立 (2012)

CUANKA (京都府北部地域・大学連携機構) is a general incorporated association established in 2012. It is a collaboration between the University of Ryukyus and various local organizations in the northern part of Kyoto Prefecture. The map shows the geographical area and lists participating institutions such as the University of Ryukyus, Kyoto University of Education, and various local governments.

### グローバル人材開発センターの設立 (NPO、2013年)

## GLOEAL

### Glocal Human Resources Development Center

The GLOEAL center is a Non-Profit Organization (NPO) established in 2013. It is a collaboration between the University of Ryukyus and various local organizations in the northern part of Kyoto Prefecture. The diagram shows the center's structure, including its board of directors and various committees, and lists its partners such as the University of Ryukyus, Kyoto University of Education, and various local governments.

### 実践教育現場の広がり展開 (フィールド先)

The map shows the expansion of practical education fields across various regions. It highlights key locations where the university's programs are implemented, including various municipalities and organizations in the northern part of Kyoto Prefecture and other regions.

## 大学地域連携アプローチ 龍谷大学政策学部の事例

- 事例1 京丹後市 伝統農法による学生田
- 事例2 洲本市 ため池ソーラー発電 龍谷メガフロートソーラ洲本
- 事例3 洲本市 限界集落での小水力発電



© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 京丹後市での農村集落の変化

龍谷大学が参加した域学連携事業(総務省)で2013年から3年間

京丹後市、洲本市  
現在はそれぞれ市の独自予算

京丹後市I集落に入った当初の地元アンケートの自由回答  
「何故学生の相手をしなければならないのか」  
「学生が何故ここに来るのか」

5年目  
5地区全区長が主催する30年ぶりの文化祭を開催  
講義の一貫で地域で親子でばら寿司教室

学生最終アンケート(昨年)  
「先生も京丹後に来てください」 ← 京丹後が起点になるように認識変化

© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 京丹後市での農業者側の発見

龍谷大学で京丹後市U地域で田を1枚借りて伝統農法でコメ作り

学生は時々手伝うというのが実態 販売を地元ショップと大学生協で

コンバイン(自脱型コンバイン)になって  
稲の手刈り、束ね、稲を乾すプロセスが新鮮  
昔の機械(バインダー)を使おう→70歳代以上人しか使い方知らない

\*\* 動画を映します

近隣農家が総出で手伝う活動の楽しさの再発見  
地区内での交流の希薄化 ばら寿司教室や文化祭は地元内での交流を生む

→ 外部からの「風」の使い方を地域コミュニティは知らない

© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 洲本市での域学連携事業の実例(4大学)



© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 洲本市千草竹原地区

学生自身の成果報告プレゼンの1頁

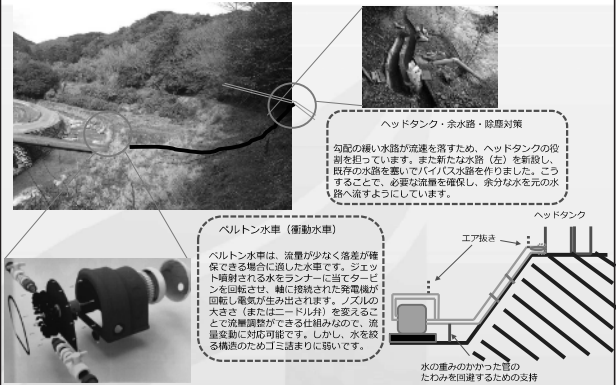
### ◆千草竹原の音楽祭

千草竹原は、4世帯8名の集落で人口減少、少子高齢化が課題としてあります。この地域では、再生可能エネルギーを核として、集落の持続、定住人口の増加を目指しています。2015年は、3月と10月に小水力発電を利用した音楽祭を、大学生と地域の方々の協同で開催し、集落の魅力を島内外の人々に発信しました。



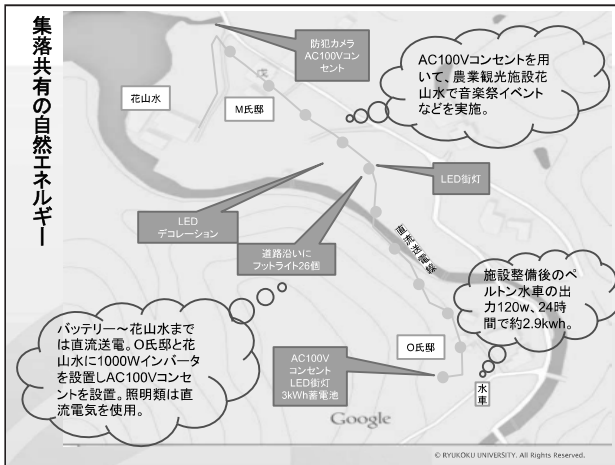
© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

## 洲本市千草竹原小水力発電所



© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.





### 「地域貢献再エネ事業推進協定」締結

龍谷大学 RYUKOKU UNIVERSITY

PS洲本株式会社  
洲本市  
龍谷大学 (LORC)  
淡路信用金庫  
淡陽信用組合

再生可能エネルギーを活用した発電事業によりもたらされる恩恵が地域の活性化や課題解決に資する「地域貢献型再生可能エネルギー事業」を推進し、豊かで自立した持続可能な地域社会の実現を図るため、相互に協力・連携することを目的とする協定(2016年11月締結)

→ ため池フロートソーラー発電事業の実現へ

© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

### 塔下新池ため池ソーラー発電所

龍谷大学 RYUKOKU UNIVERSITY

所在地 洲本市五色町鮎原塔下1596 (満水面積0.3ha)

年間発電量 8.6万kWh

設置規模 72.8kW (出力50kW 設置面積0.1ha) (災害時等は電源に利用可能)

事業費 22百万円

事業主体 PS洲本㈱

竣工 平成29年1月

© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

### 龍谷フロートソーラーパーク洲本

龍谷大学 RYUKOKU UNIVERSITY

所在地 洲本市中川原町三木田1242-1 (満水面積4.8ha)

年間発電量 約207万kWh

設置規模 1,706kW (出力1,500kW 設置面積1.8ha)

事業費 約7億円

事業主体 PS洲本㈱

竣工 平成29年9月

© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.

### 非営利株式会社として社会的投資を活用

龍谷大学 RYUKOKU UNIVERSITY

PLUSSOCIAL (プラスソーシャル) 株式会社を2012年8月に設立  
グループ会社としてPS洲本株式会社を2016年6月に設立

PLUSSOCIAL

○社会的投資をデザインする会社として、エネルギー、農業、ケア、ローカルビジネスなどを対象に社会的投資を引き出し、地域社会の資金循環を生み出すことを目的とする。

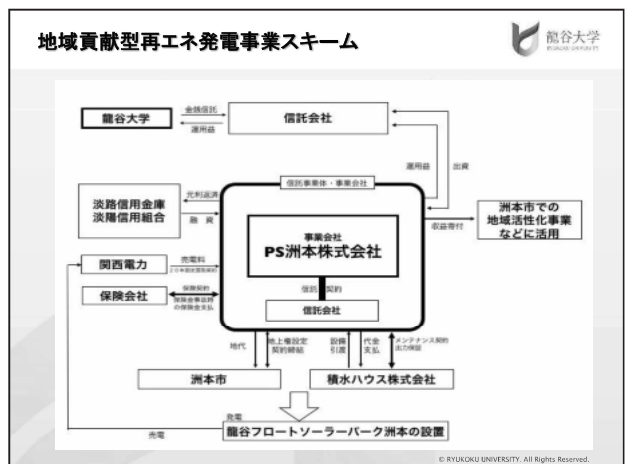
○定款で株主への配当を禁じ、非営利株式会社とした。

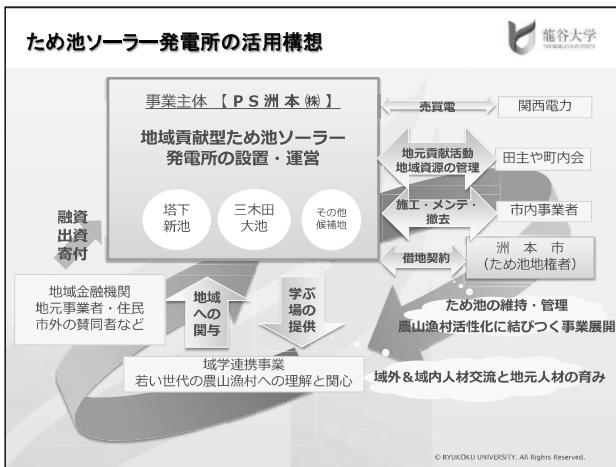
○収益にあたる部分を、寄付や委託などを通して、地域が主体となる地域の課題解決に役立てる。

地域貢献型発電事業が可能になるモデルを構築  
龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター (LORC) の共同研究

LORC

© RYUKOKU UNIVERSITY. All Rights Reserved.






# 佛教大学における初級地域公共政策士プログラムの紹介

## —南丹市美山町でのPBL型地域インターンシップ—

佛教大学 社会学部 非常勤講師 長光 太志

**佛教大学における  
初級地域公共政策士プログラムの紹介**  
—南丹市美山町でのPBL型地域インターンシップ—



By 佛教大学：長光太志

**① 佛教大学および佛教大学社会学部の構成**

- 佛教大学の通学課程の構成
 

学部：7学部14学科	6859名
大学院：4研究科	151名
- 佛教大学の通信課程の構成
 

学部：6学部10学科	2403名
大学院：4研究科	353名
- 通学の社会学部の構成
 

現代社会学科	1000名
公共政策学科	603名
社会学部	1603名
- 通信の社会学部の構成
 

現代社会学科	189名
公共政策学科	49名
社会学部	272名
- 通学の公共政策学科3回生の構成
 

女性37名	男性27名	計134名
-------	-------	-------
- \* 通信の社会学部の合計が合わないのは、旧カリの学生を含むため  
2016年5月1日現在

**② 本学の「初級地域公共政策士プログラム」の目的**

本学では、「中山間地域の活性化」をテーマとした講義やPBLを展開し、それを通じて学生の問題解決力を養成することを目的としている。

- ・今日、中山間地域は、過疎・高齢化・グローバル化などの社会変化に晒され、地域の疲弊が顕著になりつつある。
- ・こうした中山間地域の現状と課題について多角的な検討を行い、地域の問題解決に向けた提言や実践に取り組むことは、学生にとって問題解決能力を涵養するまたとない機会となる。
- ・また、こうした取り組みの中で、中山間地域と都市とを繋ぐコーディネーターが養成され、コーディネート事業が開発されれば、地域社会に対して一定の貢献を果たすことにもなる。

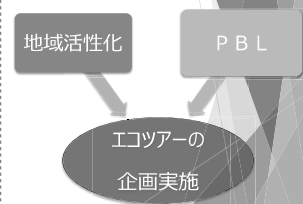
**③ 本学「初級プログラム」のカリキュラム**

表1 地域公共政策士初級プログラムのカリキュラム

授業科目	単位	必修 選択	開始 セメスター	最低取得 単位	備考
公共政策学I	2	必	3	2	
地方自治法	2	必	3	2	
公共政策学フィールドワーク入門	2	必	3	2	
環境政策論	2	選	3	4	2科目4単位を選択
地域政策論	2	選	3		
都市計画論	2	選	3		
社会的企業論	2	選	3		
インターンシップI	2	選	5	2	1)科目2単位を選択 ・PBLであるため、履修には、
インターンシップII	2	選	7		フィールドワーク入門の修得が必要

**④ 本学のPBL型地域インターンシップの概要**

- ▶ 本学が、PBL型インターンシップを実施するのは、京都府南丹市美山町である。
- ▶ 本学のPBL型インターンシップでは、美山町におけるエコツアー事業の推進を目標に、学生がエコツアーの企画と実施に取り組む。
- ▶ これにより、地域に対しては地域資源の発掘や、地域活性化に繋がる事業を提示しつつ、学生に対しては、課題解決型学習の展開が可能となる。



**⑤ 本学と美山地区との関係**

- ▶ 本学では、平成16年に、美山町と地域包括連携協定を締結し、町内をキャンパスと見立て、コミュニティキャンパスと称し、佛教大学美山荘を設置した。
- ▶ これは、一方で「地域」を学生の「学びの場」として、もう一方で「教育研究活動」を地域活性化の「起爆剤」として活用することを目的としていた。
- ▶ その後、毎年50名を超える学生が、正課として美山町でのフィールドワークやインターンシップに参加してきた。また、モデルフォレストや毎年開催される美山フォーラムなど地域の取組にも大学として積極的に関わってきた。
- ▶ 本プロジェクトでは、こうした美山と本学の関係を、美山サイドから支えて下さっていた財団法人「美山町自然文化村」と業務委託契約を結ぶことで、PBLを展開する上で必要となる現地での調整役・連絡役等を確保している。

注) 「美山町自然文化村」は、2014年に「美山ふるさと株式会社」に統合されている

### ⑥ PBL型インターンシップの参加者

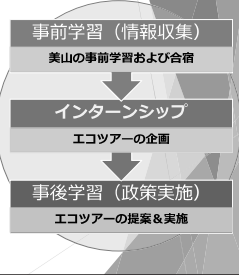
- PBL型インターンシップの参加者
  - ・2016年度のPBLに参加している学生は10名（女性7名、男性3名）  
／公共政策学科134名（女性37名、男性97名）
- 参加者の決定プロセス
  - ・2012年度の秋から、初級地域公共政策士プログラムと美山町でのPBL型インターンシップに関する説明を開始
  - 一定の負担を覚悟して貰う旨を通知、また定員も10名程度と明示
  - ・2015年12月に参加希望者を募る（14名の参加希望者）
  - ・2016年1月に、PBLの担当教員による志望書確認と面談／10名に決定

### ⑦ PBL型インターンシップの予定表

日程(1日)	日程(2日)	日程(3日)
10月1日(土)	10月2日(日)	10月3日(月)
10月4日(火)	10月5日(水)	10月6日(木)
10月7日(金)	10月8日(土)	10月9日(日)
10月10日(月)	10月11日(火)	10月12日(水)
10月13日(木)	10月14日(金)	10月15日(土)
10月16日(日)	10月17日(月)	10月18日(火)
10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)
10月22日(土)	10月23日(日)	10月24日(月)
10月25日(火)	10月26日(水)	10月27日(木)
10月28日(金)	10月29日(土)	10月30日(日)
10月31日(月)	11月1日(火)	11月2日(水)
11月3日(木)	11月4日(金)	11月5日(土)
11月6日(日)	11月7日(月)	11月8日(火)
11月9日(水)	11月10日(木)	11月11日(金)
11月12日(土)	11月13日(日)	11月14日(月)
11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)
11月18日(金)	11月19日(土)	11月20日(日)
11月21日(月)	11月22日(火)	11月23日(水)
11月24日(木)	11月25日(金)	11月26日(土)
11月27日(日)	11月28日(月)	11月29日(火)
11月30日(木)	12月1日(金)	12月2日(土)
12月3日(日)	12月4日(月)	12月5日(火)
12月6日(水)	12月7日(木)	12月8日(金)
12月9日(土)	12月10日(日)	12月11日(月)
12月12日(火)	12月13日(水)	12月14日(木)
12月15日(土)	12月16日(日)	12月17日(月)
12月18日(火)	12月19日(水)	12月20日(木)
12月21日(土)	12月22日(日)	12月23日(月)
12月24日(火)	12月25日(水)	12月26日(木)
12月27日(金)	12月28日(土)	12月29日(日)
12月30日(火)	12月31日(水)	

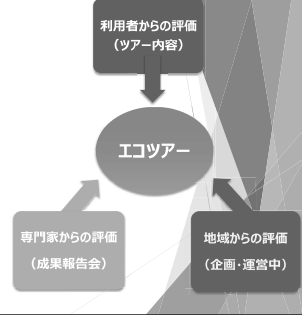
### ⑧ 事前学習と事後学習について

- ・本学のPBL型インターンシップでは、事前学習および事後学習を行っている。
- ・事前学習では、美山町での情報収集のため、座学や合宿、あるいは美山町での各種地域イベントに参加して貰う。
- ・初級プログラムのPBLは、学生に美山町での一定の経験があることを前提に実行される。
- ・事後学習では、PBLで企画されたエコツアーをブラッシュアップしつつ、このツアーを実施できるよう、美山町観光協会や南丹市美山エコツーリズム推進協議会などへ提案していくことになる。



### ⑨ 「エコツアー」の外部評価

- 学生のエコツアーは、3つの立場から、外部評価を受けることになる。
- ① 外部の専門家の評価
  - 美山町で、年度末に、エコツアーを評価する報告会を開催
- ② エコツアーに向けて、美山町へ働きかける中で、地域からの評価を受ける。
- ③ エコツアーの利用者からも評価される
  - 利用者はお金を払っているのでシビア

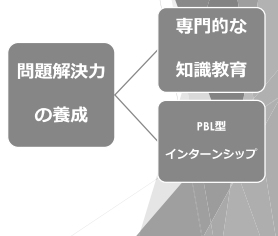


### ⑩ インターンシップの成果として期待するもの

- A: 主体的学習力** 自ら課題を設定し学ぶ力
  - ・現実社会と触れ合う経験
  - ・地域の課題を、自分の課題として捉える経験
- B: コーディネート力** 他者や社会と関わる力
  - ・「地域の様々な住民」や「異なる価値観の仲間」とのコミュニケーション
  - ・「地域の様々な住民」や「異なる価値観の仲間」へのプレゼンテーション
- C: 政策立案能力** 地域の中でプランを実現する力
  - ・必要な情報を自ら収集し整理する経験
  - ・整理した情報を論理的に分析する経験
  - ・分析結果に基づいたソリューションを実行する経験

### ⑪ 「まとめ」と「課題」

- <まとめ>
  - ▶ 本学では、学生の問題解決力を養成することを、「初級地域公共政策士プログラム」の目的としている。
  - ▶ 目的達成のため、本学のカリキュラムは、大別して2つのプログラムを用意している。
- <課題>
  - ▶ エコツアーの継続性・発展性が課題
    - コーディネーターの負担が大き
    - 予算確保が難しくなっている
    - 単発のイベントにしない為の仕組み作り



# 子どもから大人までタテ・ヨコ・ナナメのつながりが学びをはぐくむ —ASAGOiNG人財育成プロジェクト—

朝来市市長公室あさご暮らし応援課 あさご人財創生係長 馬袋 真紀

## ■「ひと」を中心においたまちづくり

平成17年4月に合併して誕生した朝来市は、人口減少・少子化・高齢化など日本全国各地の中山間地域が抱える課題に直面しており、合併直後から、「自分たちのまちは自分たちで創る」の合言葉のもと地域自治の充実、まちを担う人財の育成に力を入れてきた。そして、一人ひとりの一歩が朝来市の未来を創っていくという考えのもと、「あなたはまちの未来 ASAGOiNG」のキャッチフレーズとともに市民一人ひとりの自己実現の延長にまちと関わり生き生きとした人やまちを創っていこうと、「ひと」を中心においたまちづくりを進めている。

それは、市民一人ひとりが、自分の「やってみたい」という思いをアクションにつなげ一歩踏み出せば、生き生きと楽しい暮らしにつながり、こうした生き生きとした市民で構成されているまちは、市民の活気がまちの活気や魅力とつながると考えているからである。だからこそ、一人ひとりの「やってみよう」を育んだり応援したりするまちづくりを目指している。



## ■ASAGOiNG 人財育成プロジェクトの考え方

朝来市で暮らす小さな子どもから小中高生、大学生、社会人、事業者までが、それぞれのステージで地域や社会とつながって、考えたりチャレンジしたりする場をつくることで、学校や職場など日常のヨコのつながりを飛び出して、いろいろな大人と子どもがタテやナナメにつながり、教科書や本だけでは得られない様々な学びに出会えるようにしている。また、学びだけでなく、この場での人と人とのつながりが、背中を押し一歩踏み出すきっかけになったり、新たなグループが生まれ活動が始まるなど創発につながったりしている。

このような場づくりをはじめとして朝来市の人財育成では、「主体性」「多様性」「シビッ

クプライド」「自己肯定感」の4つを人財育成を進めていく上での大切なキーワードとしている。

それは、一人ひとりのやってみいたいという「主体性」を育み、「多様」なチャレンジがまちをおもしろく魅力的にしていくからであり、逆にまちに「多様性」が排除されると「主体性」が発揮しづらくなると考えている。また、「主体的」にやってみようと一歩踏み出せるかどうかは一人ひとりの心の土台となる「自己肯定感」が育まれていることが大きな鍵であると考えている。なぜなら、この自己肯定感が低ければ、やってみいたいという気持ちが生まれたとしても、「自分にはどうせ無理だ」という感情で一歩踏み出すことが難しくなるからだ。この自己肯定感、幼少期に生まれやすいといわれるおり、したがって、幼少期の取り組みにも力を入れている。このように、一人ひとりの学びやチャレンジの延長にまちとつながることで「シビックプライド」が生まれ、まちの魅力が高まり、「ひと」の流れを創出していこうとしている。

### ■人生を前向きに歩いていくための心の土台「自己肯定感」を育む

自分の人生を前向きに歩いていくための心の土台でもある自己肯定感は、主に幼少期に育まれると言われており、身近にいる家族や地域、こども園など周りの大人などが、自己肯定感を育むことを意識して接することが大切である。そうしたことから、自己肯定感を育む接し方のヒントを紹介したパンフレットを作成し、就学前の子育て家庭に配布したり、実践的に学ぶ講演会などを開催したりし、地域で子育てをしながら子どもたちの自己肯定感を育むことにつなげている。また、併せて、子育て中のお母さん同士のつながりを持つ場をつくることで、子育てを通して子どもたちと接する大人の自己肯定感を高める工夫をしている。



その理由の一つとして、朝来市で子育てをするお母さんたちの中には、朝来市で生まれ育った人もいれば、結婚や仕事の関係で全く知らない朝来市の地で子育てをするお母さんもおり、初めて向き合う子育てなど慣れない生活の中で孤独感に苛まれることも多いからであり、そのような状況では、子育てを楽しめず、子育て中のお母さんや子どもの自己肯定感は育まれない。だからこそ、子育てを通して人と人とのつながりを持つ場をつくり、自分らしさを発揮できるように支援することで、結果として、子育て中のお母さんや子どもの自己肯定感を高めるとともに、楽しい子育てにつなげようとしている。また、まちとしても、お母さんたちの新たな活動が生まれ、楽しいまちへとつながるからである。

実際に、子育て中のお母さんの一歩応援することをテーマにして開催した AsagoLabo や NPO 法人ママの働き方応援隊などの活動を支援することを通して、多様な活動が生まれ、お母さん目線での様々な取り組みが広がっている。

### ■中高校生の主体性を育む ASAGOiNG ゼミ U-18

今の子どもたちが大人になったとき、大手企業に入れば一生安泰という時代でもなくな

っている。また、教科学習のように答えが一つではない課題に主体的に取り組み、自分の力で未来を切り拓いていくことが必要になっている。だからこそ朝来市では、地域で活躍する多様な大人と対話したり一緒に活動したりすることで、多様な生き方・考え方に触れ、自分でも気づいていない自分自身の可能性を知るきっかけをつくったり、主体性を育んだりする場として、中高生を対象にした「ASAGOiNG ゼミ U-18」を開催している。

ASAGOiNG ゼミ U-18 は、「まちゼミ」「ろじかるゼミ」「しごとゼミ」の3つに分かれ、希望する市内在住・在学の中高生が参加している。

- 「まちゼミ」 地域で活躍する大人との対話やフィールドワークなどを通して自分たちが地域で挑戦したいことを考え、実践する半年間のプログラム。活動を通して、主体的に考え、チームで実践することで「考える力」「実践力」「チームでする力」「コミュニケーション力」を育む。
- 「ろじかるゼミ」 考え方のベースにある「論理的思考」を学ぶ6回/3か月のプログラム。自分の考えを簡潔に相手に分かりやすく、説得力あるように伝える「伝える力」を育成。結果として、面接や小論文などにも活かせるほか、勉強の仕方が身につく教科の成績アップにもつながっている。
- 「しごとゼミ」 朝来市内の魅力ある職場や働き方をされている方と対話や職場を訪問することで、朝来市での仕事の魅力や多様な働き方を知り、将来のキャリア形成のヒントにつなげている。

こうした学びの場のフィールドが地域であり、また地域で活躍する多様な大人と関わることで、ゼミの活動を通して自然に「シビックプライド」が育まれている。

また、一人ひとりの主体性を育むために、ASAGOiNG ゼミ U-18 では話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。ゼミで一緒に関わるスタッフはラフな服装にしたり自身の失敗話などを話したりするなどスタッフが心を開くことで、内気で人前で話すことが苦手な生徒も自分の意見に自信がない生徒も心を開き、自分が思っている事を安心して話し始める。そうすることで、ゼミの受講生がお互いに理解しあえ、本音で語ったり、疑問に思ったことを聞いたり、素直に助けてほしいことを伝えたりし、一人ひとりが主体的に考え、行動ができるようにつながっている。そして、その経験が自信となり、人と話すことが楽しく感じたり、自分の思いを伝えたりできるように成長している。また、まちゼミの実践活動は、「地域のために」という使命感ではなく「自分のやりたい」を主におき、実践する楽しさを感じてもらうことにも留意している。それは、心から湧き出る楽しさが一歩踏み出すのに大切なポイントであるからこそ、中高生の初めての自分のアクションに「楽しさ」を感じてもらいたいという思いがあるからだ。



こうした、一つ一つの経験が、「自己肯定感」と「主体性」を育み、自分で未来を切り拓き、「やりたい」を実現できる力につながってくと考えている。

(参考) ASAGOiNG ゼミ U-18 まちゼミでの中高生の活動事例

- 高齢化率 50%を超える朝来市黒川集落の魅力を伝えたいと、英語で動画を作成し YouTube で発信した。
- 天空の城竹田城跡のふもとの竹田のまちなかの魅力を伝えたいと、まちなかの魅力な場所を紹介するスタンプラリーを作成し、来訪者に案内を行った。併せてアンケートを作成し、自分たちの実践活動の意義等を考察した。
- 鉾山町ならではのカラミ石は明治時代に生野のまちなかでは塀などに活用されており、それは日本のリサイクルの始まりともいわれている。この日本人のもったいない精神とカラミ石の魅力に惹かれ、少しでもカラミ石の魅力を広めたいという思いから、生野のまちなかのカラミ石 MAP を作成し、来訪者に案内を行った。
- 良い農産物を作りたいという農家の思いからスタートした森林整備活動に感銘を受け、一方で、材木がお金にならない現在の仕組みを知り、少しでも森林が資源であることに着目され森林整備活動が進むようにと、自分たちで薪づくりを行い販売した。

## ■起業人財を育む ASAGOiNG Garden KOUBA

自分自身の興味関心や得意なことを仕事につなげていく起業は、多様な働き方・生き方が重視されていく中で年々増えている。旧竹田保育所を改修し起業人財交流拠点として平成 29 年 10 月末にオープンした ASAGOiNG Garden KOUBA は、インキュベーション施設として起業を応援する場のほか、多様な人が出会う場「コミュニケーションポイント」として位置付けている。ここでいうコミュニケーションポイントとは、お客として訪れる人たちがここで働く人たちや同じお客として訪れる人たちとの対話を通して自分の奥底にしまっていた気持ちをよみがえらせ自分の「やってみよう」を育むことや、また、多様な人と人との出会いが新たな仕事につながったりすることが生まれる場である。

そのためには、ASAGOiNG Garden KOUBA に入居している起業家たちだけの場所にならないように、例えば、ASAGOiNG Garden KOUBA で、イベント ASAGOiNG MEET を年に数回開催するなどとして、多様な人が訪れるきっかけづくりをしたり、多様な人が出会うきっかけづくりをしたりしながら、この場に興味を持つ多様な者で創り上げていく場としている。

このような取り組みが重なりあい、「朝来市でなら実現できそう」「この人となら一緒に挑戦できそう」と機運が高まり、朝来市に移住して起業を希望し新たな一歩を踏み出す者、また趣味だった活動の幅を広げマルシェに出店してみる者など、一人ひとりの主体性を育み、やってみようを実現し、応援するまちにつながりつつある。

## ■ASAGOiNG な人が ASAGOiNG な人を育む

朝来市では、自身の自己実現の延長にまちと関わり生き生きとした人を「ASAGOiNG」な人と呼んでいる。この ASAGOiNG な人のまちの関わり方は、例えば、自分が住む地域の地域自治協議会（小学校区単位の地域自治組織）の活動に携わる人、自分の得意な分野や好きなことを活かしながらテーマ型の市民活動に携わる人、さらには、仕事にまでつなげ起業している人など多様である。また、お菓子作りや手芸や木工など、特技や趣味で完結して

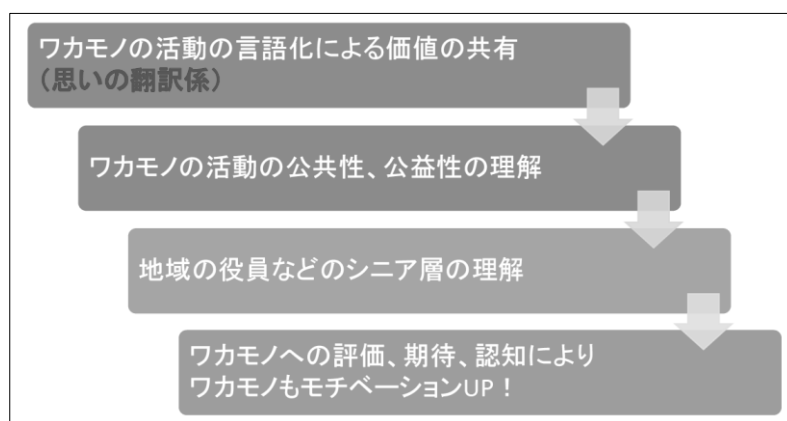


いたことをマルシェに出店してみよう、文化祭に出展してみようと踏み出すことも一つのカタチであると考えている。

ASAGOiNG な人の活動の広がり、ASAGOiNG な人の考え方、生き方、活動などに感化され、「楽しそう」「面白そう」という思いから、次の新たな一歩を踏み出す ASAGOiNG な人が生まれ、ASAGOiNG な人の輪が広がっていく。そして、その動きがまちの動きを創っていく。そこには、「地域を良くしたい」「地域のために」と思っていなくとも、活動のフィールドが朝来市だからこそ、結果として朝来市のためになっていたという場合が多くあり、特に若者層の活動はその場合はほとんどである。だからこそ、往々にして、若者層の活動は、地域に理解が得られにくいことも多い。

しかし、こうした ASAGOiNG な若者層の動きを広げていくためには、若者の活動の内容や想いを翻訳したり、伝えたりすることが大切である。そうすることで、ASAGOiNG な人の活動を応援するだけでなく、活動フィールドである地域住民が理解することにつながり、さらには、新たな者が一緒に楽しんだりすることにつながる。そして、結果として、多様な動き生まれ、まちが面白くなると考えている。

朝来市では、こうした多様な ASAGOiNG な人を育む人財育成事業は、朝来市のまちづくりの基盤づくりであり、創生事業及びシティプロモーション事業の根幹として現在取り組んでいるところである。



## ASAGOiNG人財育成プロジェクト



朝来市 市長公室 あさご暮らし応援課  
あさご人財創生係長 馬袋 真紀

### 今日の話題提供

1. 朝来市のまちづくりと人財育成の基本的な考え方
2. ASAGOiNG人財育成プロジェクトの概要紹介
3. 中高生の学びの場ASAGOiNGゼミ U-18の詳細紹介
4. ふりかえりとこれから

### 今日の話題提供

1. 朝来市のまちづくりと人財育成の基本的な考え方
2. ASAGOiNG人財育成プロジェクトの概要紹介
3. 中高生の学びの場ASAGOiNGゼミ U-18の詳細紹介
4. ふりかえりとこれから

### 朝来市が目指す将来像

**あなたが好きなまち・朝来市**

### 朝来市が目指す将来像

**ASAGOiNGな人が  
たくさんいるまち**

**ASAGOiNG 人**

## 「ASAGOiNGな人」とは...! ?

自分らしく  
自分のやりたいことを  
実現しながら  
その延長に  
まちと関わっている人

(活動、生業など)

ASAGOiNG

## ASAGOiNGな人がいるまち

生き生き  
とした人

生き生き  
としたまち

魅力的な  
まち

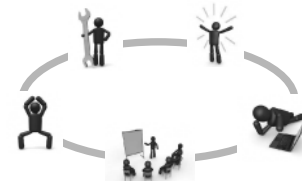
ASAGOiNG

## ASAGOiNGな人が増えたまちの姿



ASAGOiNG

## ASAGOiNGな人が朝来の未来に!



ASAGOiNGな人を育む

⇒ ASAGOiNG人財育成プロジェクト

ASAGOiNG

## 今日の話提供

1. 朝来市のまちづくりと人財育成の基本的な考え方
2. ASAGOiNG人財育成プロジェクトの概要紹介
3. 中高生の学びの場ASAGOiNGゼミU-18の詳細紹介
4. ふりかえりとこれから

ASAGOiNG

## ASAGOiNGな人が増え、広がっていくための朝来市の取り組み



ASAGOiNGな人のを育む

- ① ASAGOiNGの人を発信し、一人ひとりのASAGOiNGなAction(行動)につなげる。  
(シティプロモーション戦略)
- ② まちや人とをつなぎ、ASAGOiNGなAbility(推進する力)を育成する。  
(人財育成プロジェクト)

ASAGOiNG

# シティプロモーション

## 朝来市のシティプロモーション

### ◆ 朝来市シティプロモーション戦略の策定

「外向きの差別化」よりも  
「内向きの主体化」を目指す

シビックプライドを醸成するための  
シティプロモーションの展開



## 朝来市のシティプロモーション

### シビックプライドを育むシティプロモーション

まちのつながりや人と人とのつながる場をつくり、  
市民が主体的にまちに関わろうという前向きな気持ちを育む

### 消費型ではなく心に届ける

市民一人ひとりが自然に発信者（一人ひとりが主役）となり、  
まちや人の魅力とともに、届けたい人に届ける

まちや人の魅力が、新たな人の流れを生み出す



## 朝来市のシティプロモーション

第1 PHASE

• 行政や公的主体が全市民向けのプロモーションを展開

第2 PHASE

• 市民の中の「積極派」による動きが活発化し「前向き派」がそれに巻き込まれ、「慎重派」も応援する気持ちになるような市民間の受発信が盛んになる。

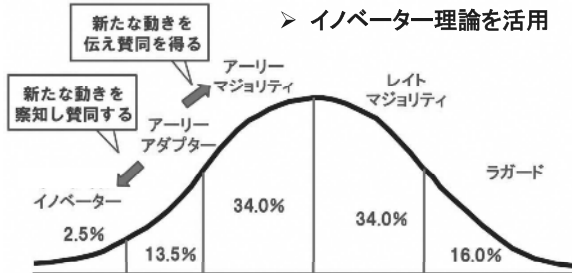
第3 PHASE

• 朝来の全市民とファンの一人ひとりが発信者となってまちの魅力を伝える。



## ASAGOiNGな人を増やし オモシロいまちにつなげていくために

### ＞ イノベーター理論を活用



## 朝来市のシティプロモーション ～ 人の動きを伝え、一人ひとりの一歩を応援～

### ◆ ASAGOiNGな人を紹介して、一人ひとりの一歩を応援



朝来市広報  
連載(表紙と紹介)



コンセプトブック  
一人ひとりの一歩を紹介



朝来市ポータルサイト  
市広報と連携して紹介



フリーペーパー  
人や活動、  
コミュニケーションポイントを紹介



## 朝来市のシティプロモーション ～フェイスツーフェイスのつながりで一步を応援～

◆ ASAGOiNGな人との対話から一人ひとりの一步を応援



**起業人財交流拠点施設**  
旧竹田保育所を活用したインキュベーション施設(工房やシェアオフィスを整備)

Face to Face のつながりで **まちの魅力・人の魅力を伝え、  
一人ひとりの一步を応援**

ASAGOiNG

# 人財育成プロジェクト

## ASAGOiNGな人が持つチカラ

未来をつくる  
チカラ

+

まちを愛する  
チカラ

=



自分で道を切り拓く力

「主体性」「多様性」  
「自己肯定感」「シビックプライド」

ASAGOiNG

## どうして人財育成なのか これから待つ未来は・・・

AI(人工知能)などにより今後  
10～20年の間に約47%の仕事  
が自動化される

By オックスフォード大学准教授

- ✓ 人口減少
- ✓ 科学技術の発展
- ✓ グローバル化の進展
- ✓ 変化の激しい予測不可能な社会



ASAGOiNG

## どうして人財育成なのか 必要とする力とは・・・

- ✓ 様々な変化に対応
- ✓ 自分の未来を自分で切り拓いていく

『最も強い者が生き残るのではなく、  
最も賢い者が生き延びるでもない。  
唯一生き残るのは、変化できる者である』

By ダーウィン (イギリス自然科学者)



ASAGOiNG



## 取り組み 事例の紹介

小さな子ども・小学生

就学前の子どもを持つご家庭や、携わる大人を対象に  
**自己肯定感**の大切さや、  
**自己肯定感**を育むための言葉かけの方法を伝える

- ・講演会の開催  
H29.3開催  
H30.1開催
- ・パンフレット作成  
H29.12配布



ASAGOiNG

## ASAGOiNGな人 育む事例

小さな子ども・小学生

地域が主体となって小学生と地域の人とつながり、  
地域を知る場づくり



ASAGOiNG

## 取り組み 事例の紹介

中学生・高校生

地域や地域で活躍する大人とつながり、  
**主体性**を育む活動

- ・ASAGOiNGゼミU-18  
平成28年度から開催
- ・実践的で魅力的な  
授業の展開  
和田山高校はキャリア教育  
生野高校はグローバル教育



ASAGOiNG

## 取り組み 事例の紹介

大学生

主体性を育む  
インターンシップ

- ・長期インターンシップ
- ・市役所インターンシップ  
達成目標を予め明示し、  
自分たちで考えて動く！



主体的な仕事の楽しさ、  
やり抜くことを学ぶ

ASAGOiNG

## 取り組み 事例の紹介

大人

地域で活動や起業など一歩踏み出す  
応援の場づくり

- ・AsagoLabo  
平成27年度から開催  
・プランづくり  
・人と人のつながりづくり  
・応援団づくり



ASAGOiNG

## 取り組み 事例の紹介

社会人・事業者

- ◆ ASAGOiNGな人との対話から一人ひとりの一歩を応援



起業者財交流拠点施設  
旧竹田保育所を活用したインキュベーション施設(工房やシェアオフィスを整備)

Face to Face のつながりで まちの魅力・人の魅力を伝え、  
一人ひとりの一歩を応援

ASAGOiNG

## 取り組み 事例の紹介



社会人・事業者



工房スペース



コワーキングスペース

ASAGOiNG

## 今日の話題提供

1. 朝来市のまちづくりと人財育成の基本的な考え方
2. ASAGOiNG人財育成プロジェクトの概要紹介
3. 中高生の学びの場ASAGOiNGゼミU-18の詳細紹介
4. ふりかえりとこれから

ASAGOiNG

## 朝来市創生推進人財育成プロジェクト ～ 中学生・高校生を対象にした講座 ～

### ◆ ASAGOiNGゼミU-18（中学生・高校生対象にしたゼミ）

#### 地域学習×教科学習×キャリア教育

- 学校と社会をつなぐ
  - ・将来社会に出て必要な力を身につける。
  - 「考える力」「実践力」など
  - ・知識を知恵につなげ、学力もアップ！
- 身近な人や地域が題材
  - ・身近な人や地域だからこそ自分事に考えられる。
  - ・多様な人との出会いをキャリア教育につなげる。
- 自分の道は自分で切り拓く
  - ・様々な経験を通して自分に自信を持ち、自分で切り拓く。



ASAGOiNG

## ASAGOiNGゼミU-18って！？

### ↑↑ まちゼミ

地域の方との対話やフィールドワークで地域に関して理解を深め、さらにその地域で自分が挑戦したい活動を企画し、実践！

### ↑↑ ろじかるゼミ

身の回りのことを題材に論理的思考を学び、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を身につけます！

### ↑↑ しごとゼミ

市内の魅力的な職場を訪問し、対話することで、朝来市での仕事の魅力や多様な働き方を知り、将来のキャリア形成のヒントにします。



ASAGOiNG

## ASAGOiNGゼミU-18 まちゼミの流れ



ASAGOiNG

## 実際の活動の紹介 まちゼミ



文章を読み解き、地域のことを知る

☞ 読解力UP!



地域のことを調べ、英語で伝える

☞ 伝える力UP!  
調べる力UP!

ASAGOiNG

## 実際の活動の紹介 まちゼミ



地域で活躍する大人との対話 地域のことを知る、活躍する大人の生き方に触れる  
 ☞ コミュニケーション力UP!  
 ☞ キャリア形成ヒント



## 実際の活動の紹介 まちゼミ



フィールドワークを通して、地域のことを知る



☞ コミュニケーション力UP!



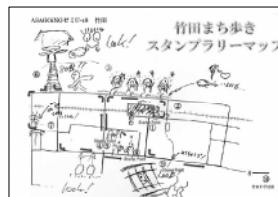
## 実際の活動の紹介 まちゼミ



地域で自分たちがやりたいことを企画する ☞ 考える力、チームでやる力UP!



## 実際の活動の紹介 まちゼミ



地域で自分たちがやりたいことを実践する 2016年

(竹田のまちなかの魅力を伝えるためにスタンプラリーを作成、案内)



## 実際の活動の紹介 まちゼミ



## 実際の活動の紹介 まちゼミ



☞ 実行力、チームでやる力UP!





## 実際の活動の紹介 まちゼミ



地域で自分たちがやりたいことを実践する 2017年(前期)

(生野鉦山町ならではのカラム石の魅力を伝えるためカラム石MAPを作成し配布)



## 実際の活動の紹介 まちゼミ



地域で自分たちがやりたいことを実践する 2017年(後期)

(薪をつくり販売し、里山づくりの必要性や森林資源の有効活用を学ぶ)



## 実際の活動の紹介 まちゼミ



実践活動をふりかえる



⇒ 考える力、分析力、チームでする力UP!



## 実際の活動の紹介 まちゼミ



やってきたことや気づき、考え等を発表する  
(事実) ⇒ (感情) ⇒ (考え)



お世話になった地域の方等との  
ふりかえり対話

⇒ 伝える力、コミュニケーションUP!



## ASAGOiNGゼミU-18 ろじかるゼミ



自分の頭の中にある考えを論理的に整理し、相手に分かりやすく伝える力を身につける。



## 実際の活動の紹介 ろじかるゼミ



論理的思考を学ぶ(理解、具体と抽象、因果関係、比較)

⇒ 論理的思考、伝える力、文章力UP!



## ASAGOiNGゼミU-18 まちゼミ受講生感想

- 他者評価を気にしなくなった。
- 自分の意見を伝えることの大切さを感じた。  
伝えるからアクションにつながるし、  
多様な意見を聞く機会にもなる。
- 自分ができないこと、分からないことを  
SOSで伝えることは恥ずかしいことではないと  
分かった。伝えるからフォローしあえ、前に進める。
- とことん自分が納得するまで考えて決めることが、  
アクションにつながった。



ASAGOiNG

## ASAGOiNGゼミU-18 ろじかるゼミ受講生感想

- 学校の成績が上がった！！  
(国語が30点台から80点台に！)
- 説得力のある(=論理的な)話ができたり、  
文章が書けるようになった！
- 人との対話が楽しくなり、人の意見を尊重  
できるようになった。
- 自分に自信がついた。
- 人前で話すのが苦手だったが、少しは克服できた。



ASAGOiNG

## ASAGOiNGゼミU-18の 効果はあるのか！？



事業前と事業後の変化



	事業前	事業後	比較
自己肯定感	2.97	3.16	+0.19
自己実現の意欲	3.47	3.53	+0.06
積極性、粘り強さ	3.03	3.34	+0.31
自己開示、主張	3.59	3.70	+0.11
協調性	3.90	4.11	+0.21

ASAGOiNG

## ASAGOiNGゼミU-18の 効果はあるのか！？



事業前と事業後の変化



	事業前	事業後	比較
主体的に自分で決めて動く	3.60	3.90	+0.3
身の回りのことで疑問に感じ、現 状分析し、課題を発見する	2.50	3.90	+1.4
ものごとを筋道を立てて考える	2.40	3.30	+0.9
想定外のことが起きても臨機応変 に考え、対応する	3.30	3.90	+0.6

ASAGOiNG

## ASAGOiNGゼミU-18の 効果はあるのか！？



事業前と事業後の変化



	事業前	事業後	比較
今、暮らしている地域のことが好き	4.3	4.5	+0.2
まちや地域が抱えている課題や 将来について興味がある	3.5	4.0	+0.5
まちや地域が少しでも良くなるよう 何か関わりたい	3.3	3.9	+0.6
将来、進学や就職などでまちを出 ても、いつかは帰ってきたい	3.8	3.8	±0

ASAGOiNG

## 今日の話題提供

1. 朝来市のまちづくりと人財育成の  
基本的な考え方
2. ASAGOiNG人財育成プロジェクトの  
概要紹介
3. 中高生の学びの場ASAGOiNGゼミ  
U-18の詳細紹介
4. ふりかえりとこれから

ASAGOiNG

## やってみて分かったこと

対話と経験の大切さ

**対話**

- ・思考を深めたり、広げたりする
- ・可能性が広がる
- ・理解の深化からオモシロさを感じ、そしてアクションへ

「主体性」  
「多様性」

**経験**

- ・経験から得る納得性(理解)
- ・経験学習サイクルが主体性を育み次のアクションや次の学びを育む。

「自己肯定感」  
「主体性」

## やってみて分かったこと

「教える」ではなく「学ぶ」

- ・「教えよう」としても身につかない  
主体性が、「学び」につながり、自らの力につながる。  
↳自分たちで考え、自分たちで決めて、行動する
- ・大人が中高生たちに「教える」関係ではなく、一緒に「学び合う」関係になること

## やってみて分かったこと

やっぱり、  
**「楽しい」** が大事！！

参加動機は、「おもしろそう！」  
継続は、「楽しい！」

➡ 一歩踏み出す (参加する) ➡ 主体性

## やってみて分かったこと

若い世代は Will を優先に!!

**Will**  
やりたいこと

**Must**  
地域が求めていること

**Can**  
できること

**地域活動・起業に！**

Will + Can ⇒ 独りよがり、自己満足  
Can + Must ⇒ やらされ感  
Will + Must ⇒ 絵に描いた餅

「楽しい！」が一番大切！

## 年代による地域活動・市民活動に対する考え方の違い

	シニア層	ワカモノ
はじめるきっかけ	使命感	おもしろそう
進め方・手法	形式的	実質的
継続	義務感	楽しい
活動の視点	地域課題の解決	未来思考

## 若者の活動を応援する思いの翻訳係

ワカモノの活動の言語化による価値の共有 (思いの翻訳係)

↓

ワカモノの活動の公共性、公益性の理解

↓

役員などのシニア層の理解

↓

ワカモノへの評価、期待、認知により  
ワカモノもモチベーションUP！

